

委員会名	2022年度 第7回 生産技術委員会
開催日時	2023年3月3日 15:00~17:00
開催場所	石油資源開発(株)技術研究所 会議室(Google Meet とのハイブリッド開催)
出席者(敬称略)	吉岡委員長、加藤副委員長、久々宇(運営幹事、文責)、高居(運営幹事)、中島、荒木、谷口、巳波、上野、佐藤、知識 (オンライン)飯野、安達、増田、深江、阿部
議事	<p>1. 事務報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 東京大学 増田先生が3月末で退任予定について連絡。</li> <li>● 増田先生の後任は小林肇准教授が4月より着任予定。</li> <li>● 委員名簿内の変更は着任後に委員に共有予定(4/1付更新予定)。</li> </ul> <p>2. 幹事会報告</p> <p>知識委員より幹事会議事概要(第87期11回)が報告された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 会員の異動および令和5年度一般会計収支報告がされた。</li> <li>● 令和5年度石油技術協会 会議・行事開催予定(案)について、事務局業務削減の一環として、評議員会の開催について見直したい旨、報告がされた。</li> <li>● 令和5年度予算策定方針について以下の通り、報告された。 <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 90周年記念行事実施を計画中である。</li> <li>✓ これまでの出版物・用語辞典に CCS や CO2 関係の用語を含めて改定した記念出版物の発刊を考えている。</li> <li>✓ 周年行事は CCS 委員会の新規設立に伴う、新たな組織体制および出版物の良いアピールの場となることが期待される。</li> </ul> </li> <li>● 編集種別誤りの経緯およびその対応として、査読システムに関する意見を分科会で集約中である旨、報告された。</li> <li>● 日本地下水学会との pre-workshop (PWS) を3月に実施し、アンケートを集め、その内容を踏まえて、共催 WS を計画中和の旨で報告された。</li> <li>● 第88回(令和5年度)総会及び春季講演会について以下の通り、報告された。 <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 大会はハイブリッド開催にて実施。</li> <li>✓ 参加費については現地参加:6千円、会員オンライン参加:7千円として、収支の見直しを図った。配信関係費用が高いことから、オンライン参加を割高としている。</li> <li>✓ 6/9以降国際学会開催のため、秋田市内ホテルがタイトとなる可能性があり、運営幹事ならびに理事会委員などは早めのホテル確保が呼びかけられている。</li> </ul> </li> <li>● 将来像検討会議についてミッションとビジョンの最終案が取りまとまった。また、CCS委員会を新規設置することに伴い、詳細を各委員会にヒアリング実施予定である。(*生産技術委員会では日程の都合に伴い、委員会とは別にヒアリングの機会を設ける予定である)</li> </ul> <p>3. 理事会報告</p> <p>吉岡委員長より理事会議事概要(第87期6回)が報告された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 令和5年度予算方針について:幹事会報告と同様の内容であり、詳細省略。</li> </ul>

- 春季講演会準備委員会（第2回）について、参加費用の取り扱いとして、オンライン施設の利用に伴い、オンライン参加者を割高に設定しても良いのではないかという意見有り。
- 日本地下水学会との PWS については幹事会報告と重複するため、詳細省略。
- 将来像検討会議（第6回）
  - MISSION 文言を整理し、会則第2条目的の内容を以下の通りとした。敢えてカーボンニュートラルといった限定的な表現は避け、普遍的な言葉を用いている。
 本会は、石油・天然ガス鉱業及びこれに関連する科学・技術の進歩普及への貢献を通じ、地球環境を保全しながらエネルギーの安定供給に資することを目的とする。
  - CCS 委員会設立提案を実施
  - 運営体制強化として、法人化・財政基盤の確立・事務局業務の効率化を図る旨、議論を実施

（質疑応答）

Q（巳波委員）：CCS は MISSION の文言のうち、「関連する科学・技術の進歩普及への貢献」というフレーズに含められているか？

A（吉岡委員長）：MISSION 文言の整理を進めるうえで、複数採り上げた文章のうち、CCS を考慮した文言を1つ選択している。（後日、理事会配布資料を委員内に共有）

C（知識委員）：予算方針内の収支バランスについて、現在石鉱連から50%補助を受けているが、そもそも石鉱連の設立目的が石油技術協会のサポートであるということを踏まえて、資金流れについては確認が必要。

Q（中島委員）：講演会の参加費用について1日目は現地参加だが、業務都合により2日目はオンラインとしたい場合、参加費用の取り扱いはどのようになるか？

A（吉岡委員長・知識委員）：特に議論していないため、今後の幹事会および理事会にて議題に挙げたい。

#### 4. 2023年度春季講演会について

久々宇委員より個人講演に関して、以下の通り報告された。

- 全体にて55件の応募が集まり、そのうち学生発表の件数は25件となっている。
- 運営幹事がポスター発表と口頭発表の形式について、区分けを行う。
- 口頭発表のセクション分け、アジェンダ作成について3月13日までに実施予定

Q（加藤副委員長）：個人講演に関するプログラムはいつ共有されるか？

A（久々宇）：いずれ共有する予定ではあるが、事務局にアジェンダ案を提出する際に共有の可否について確認したのち、委員の皆様へ共有する。

加藤副委員長よりシンポジウムに関して、以下の通り報告された。

- 配布資料の通り、開発・生産部門のシンポジウムについて、アジェンダ案を策定した。一部講演タイトルが決定していないため、今後詳細を決めていく予定である。
- 登壇者に対する質問は共通事項もあるが、石油開発関連企業（INPEX・JGC・JAPEX・CMG）とそれ以外（秋田大学・ウェンティジャパン）に

分けて用意する想定である。

- 秋田大学・小田先生は事業の経済性分析などの評論家的な観点でのコメントをいただくことが出来れば、多角的な議論をすることが出来て、シンポジウムとして盛り上がるのが期待される。

Q（知識委員）：秋田でのシンポジウム開催、および登壇者として秋田大学の小田先生にコメントをいただくにあたり、秋田でのカーボンニュートラル事業について、地域住民からの社会的受容性などの面で肯定的なコメントはもらえるか？

A（加藤副委員長）：小田先生の過去の業績を確認したところ、グローバルな観点での代物が多かったが、今回のシンポジウムの運営にあたり、先生と相談していくこととしたい。

C（増田先生）：小田先生はエネルギー分析について、線形計画法を用いた分析を得意としている。そのため、発表としてはその分析結果について話されると予想するので、その分析に利用したモデルの Input データに関わる質問が出来れば良いのではないかと推察する。

#### 5. 次年度の委員会開催日・場所について

久々宇委員より次年度の委員会の開催につき、説明された。

大学訪問先としてコロナ禍以前の 2019 年度で訪問した京都大学、九州大学を予定する。

	2023		2022
第 1 回	5 月 11 日 (木)	JOGMEC (虎ノ門オフィス予定)	JOGMEC→オンライン
第 2 回	7 月 6 日 (木)	INPEX	ハイブリッド(INPEX)
第 3 回	9 月 7 日 (木)	JX	JX→オンライン
第 4 回	11 月 2 日 (木)	九州大学	ハイブリッド(秋田大)
第 5 回	12 月 1 日 (金)	京都大学	ハイブリッド(東北大)
第 6 回	1 月 11 日 (木)	出光	ハイブリッド(CIECO)
第 7 回	3 月 7 日 (木)	JAPEX	ハイブリッド (JAPEX 技研)

#### 6. 石油資源開発(株)技術研究所 ラボツアー

- 技研概要説明(組織概要、研究トピックス)
- 各実験室紹介

以上